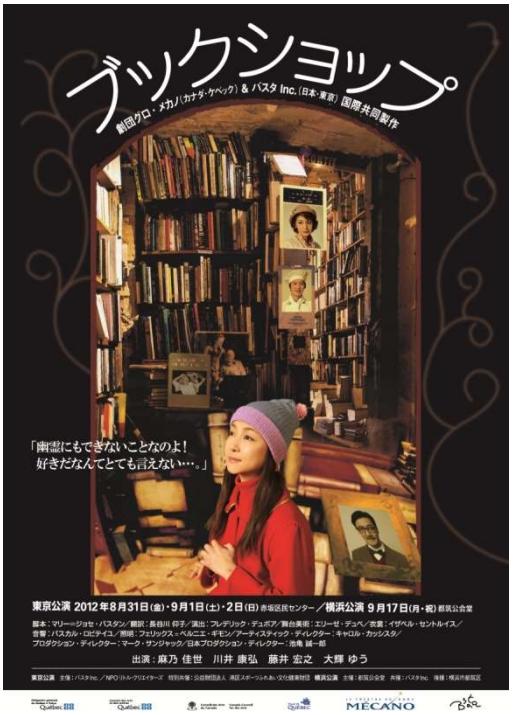
ブックショップ

劇団グロ・メカノ（カナダ・ケベック）＆バスタ Inc.（日本・東京）国際共同製作

かんげき 観劇ガイドブック

さくひんかいせつ

作品解説



LE THÉÂTRE DU GROS MÉCANO

バスタ

『ブックショップ』をご覧になるみなさんへ

『ブックショップ』は、カナダのケベックという街にある

劇団(げきだん)グロ・メカノが創った芝居です。

劇作家(げきさっか)のマリー・ジョセ＝バスタンが、

“本”を愛する気持ちをたくさんの人と分かち合いたいと願い、

過去と現在、想像と現実の世界を行き交う、

おかしくて、やさしさにあふれた物語を書きました。

初めはフランス語で書かれた芝居が、

英語、スペイン語、そして日本語でも上演されるようになりました。

この作品で描かれているのは、本に対する愛情(あいじょう)、

そして好きな人に“好き”という気持ちを伝えることの大切さです。

みなさんは本を好きですか？

誰かを好きになったことがありますか？

劇場(げきじょう)は、現実(げんじつ)とは違う世界で、

いろんな人の人生を体感できる不思議(ふしぎ)な空間です。

想像力(そうぞうりょく)を思いっきり使って、この芝居を楽しんでください。

『ブックショップ』を楽しむヒント

①あらすじを読みましょう。⇒8 ページ

②「本」について考えてみましょう。

「本」という言葉は一般的な用語です。一口に「本」といっても、その形式や内容によって、たくさんの種類に分けられます。『ブックショップ』の登場人物のひとりが、いくつかの例をあげています。

ヴィクター　そう。でも、「本」という言葉は総称なんだ。
本にはね、
詩集（ししゅう）
手記（しゅき）
地図帳（ちずちょう）
電話帳（でんわちょう）
記録簿（きろくぼ）
書簡集（しょかんしゅう）
機関誌（きかんし）
入門書（にゅうもんしょ）
小説（しょうせつ）
辞書（じしょ）
パンフレット
百科事典（ひゃっかじてん）
があるんだ。

他に、アルバム、おとぎ話、寓話（ぐうわ）、マンガなどが挙げられます。小説にも色々あります。例えば、ロマンス、冒険（ぼうけん）、ホラー、探偵（たんてい）、歴史（れきし）、叙事詩（じょじし）などがあります。
他にはどんな種類の「本」がありますか？
あなたの好きな本はなんですか？

③芝居を創るにはどんな仕事があるか、考えてみましょう。

- 脚本（きゃくほん）　芝居の基本になる本を書くこと。物語の設定、舞台装置（ぶたいそうち）、登場人物のせりふ・動作などを記している。

- 演出（えんしゅつ）　脚本を芝居として表現するために、演技（えんぎ）・装置（そうち）・照明（しょうめい）・音響（おんきょう）などの表現に統一と調和を与える仕事。

- 舞台美術（ぶたいびじゅつ）芝居の各場面を表現する装置や道具をデザインし、製作（せいさく）する仕事。

- 衣裳（いしょう）　登場人物が身に付ける衣裳をデザインし、製作する仕事。

- 照明（しょうめい）　芝居の各場面を表現するために光を当てる仕事。朝、昼、夜、家のなか、草原など、明りの色や角度（かくど）、種類（しゅるい）を使い分けることによって様々なシーンや登場人物の心の動きを表現する。

- 音響（おんきょう）　芝居の各場面に臨場感（りんじょうかん）を与えるように、さまざまな音や音楽を出す仕事。

クリエイティブ・スタッフからのメッセージ

■アーティスティック・ディレクター

キャロル・カッシスタ

初めて恋（こい）をしたときのことを覚えていますか？
あなたは、その気持ちを伝えることができましたか？
それとも恥かしくて何も言えませんでしたか？
そう、のどに何かがつっかえてる感じ･･･胃の中で蝶（ちょう）が飛んでるような変な感じ･･･信じられないくらい重い荷物を背負っている感じ。
本屋さん。本、本、本、とにかく本がたくさん。
本は、私たちをリラックスさせ、ひらめきをもたらし、情報を与え、感動させ、はぐくみ、そして私たちの意欲をかき立ててくれます。本があれば、私たちは最高に心地よく時を過ごすことができます。

『ブックショップ』を創作することは、私たちアーティスティック・チームにとってすばらしい冒険でした。
さあ、今度はみなさんが、このさわやかな空気とすばらしい観劇体験（かんげきたいけん）を味わう番です。
どうぞこの舞台を楽しんでください。

■ 脚本（きゃくほん）　マリー＝ジョセ・バスタン

何年か前に、劇団グロ・メカノに脚本をたのまれたとき、私はまるで子どものようによろこびました。

私は、いちばん幸せを感じたことを思い出しながら、何時間もかけて子どもころの想像のかけらを集めました。そんな思い出を辿るのはとても楽しいことでした。書くという作業はみなさんが聞く必要があること、聞きたかったことを表現するひとつの方法です。みなさんが自分の芝居を書くときには、みなさんが本当に言いたいことを語り、みなさんが大好きなものを分かち合うことができます。

私は、絵本から百科事典にいたるまで、世界中の物語を全ておさめているすばらしいもの･･･本を愛する私の気持ちをみなさんに語り、思いを分かち合いたかったのです。本を手にすると、世界の全てをむさぼるように読みつくして一語一語をごくりと飲み込みたいという抑えがたい衝動（しょうどう）、そして本の中に沈み込み、まぎれ込んでしまおうという衝動について語りたいと思いました。どんな本もユニークで私たちの心に直接語りかけてきます。本は想像の世界へのパスポートなのです。

私はみなさんが想像もつかないほどのたくさんの夢を持っています。そ の夢を実現したいととても強く願っています。私の心のブックショップは、愛おしい素敵な物で充たされています。その棚に並んでいるのは、本の他にも、知識（ちしき）や学びたいという欲望、ゆっくりとしたワルツの優雅（ゆうが）なステップ、そして、チ ョコレート、チ ョコレート、チョコレート！

劇場（げきじょう）は人間について、そ して人間同士の関係について知ることができる数少ない場所だと思います。若い人たちにとって、芝居（しばい）を見に行くことは人間として価値のある、貴重（きちょう）な経験です。芝居を通じて新しい創造の形を知り、劇場のミステリアスで魔法（まほう）のような世界をのぞき、そして何より夢を見る勇気を持つことができるのです。

【プロフィール】

脚本家、女優、演出家、デザイナー、レザンファン・テリブル劇団（ケベック）共同創立者。「ブックショップ」はバスティアンが初めて若い観客のために書いた作品であり、パリにある非常に専門的な書店「シェイクピア＆カンパニー」を訪れたときに発想を得たという。ケベック演劇芸術学院で学び（1997 年より教授を務める）、ラバル大学で劇文学の卒業証書を取得。最近では、ケベックのニヴォー・パルキン劇団のコレクティブ・クリエイション「Lentement la beauté」の共同執筆を手がけた。これまでに演出賞、脚本賞、脚色賞、助演女優賞など数々の複数の部門でノミネート及び受賞。1993年ニッキー・ロイ賞（ディスカバリー・オブ・ザ・イヤー）、ケベック文化芸術賞を受賞した。バスタンは、新作の開発協力やケベック演劇界に対する独創的で精力的な貢献により高い評価を得ている。

■演出（えんしゅつ）　フレデリック・デュボワ

私が子どもだったころ、よく道ばたで友だちと芝居を上演していました。
笑われたこともあります。
「あいつ、みてみろよ。いつもしきりやがって」…とか、なんとか。
とても悲しくなりましたが、まちがったことはしていないと確信していました。
だって私は芝居が大好きだったのですから。
心の底から本当に好きだったのですから。
だから『ブックショップ』を読んだとき、涙がこぼれました・・・
ページをめくるたびに、私 がいまだに周りの人たちと芝居を上演していることに気づいたからです。
相変わらず芝居が好きなんだと。しかも心の底から。
私には夢があり、それは私がやりたいと思っていたことで、そして実際にやっているのです。夢を叶えたのです。自分を充たしているのです。私の人生毎日。職業にまでしてしまいました。
本が好きなジェーンのように、チョコレートが好きなサミュエルのように。
でも彼らの前にはもうひとつ挑戦（ちょうせん）しなければいけないことが待っています。お互いに愛していると大きな声で言うことです。
それは簡単なことではありません。ヴィクターとペトラを見てご覧なさい。彼らにはそれができなかった。そしてそれをいまだに悔やんでいるのです。
これは、私自身も人生の中でやることを学ぶ必要があります･･･充分に言葉にせずにいるのです･･･。
そしてそのこともまた私の涙を誘います。この方がずっと悲しいことです。
機会が無いというのではありません。時において、人生でいちばん単純だと思えることがいちばんむずかしいのです。
『ブックショップ』を見ると、みなさんにもそのことが分かると思います。つまり、あまりにも単純だからかえって人生を複雑にしてしまう、小さなできごとの数々。私はそれが好きなのです。本当に心の底から。
だからこそ、喜びと愛を込めて、みなさんをこの世界にお誘いするのです。
ずっと劇場に通い続けてくだされば いいな、と思っています。
本を読んで、芝居を楽しんで・・・
来てくださってありがとう。

【プロフィール】
1977年生まれ。俳優・演出家。デ・フォン・ドゥ・ティロワール劇団Théâtre des Fonds de Tiroirs（ケベック市）で創立より芸術監督を務める。1999 年ケベック演劇芸術学院を卒業。その大胆なまでに独創的な演出により、２005 年最優秀演出賞（ Prix d’ ex cellence des arts et de la culture de Québec）はじめ、数々の賞を受賞。フォン・ドゥ・ティロワール劇団以外の主な演出作品に、デュ・トリダン劇団の「HA ha!」（レジャン・デュシャルム作、2004 年10 月NAC フランス語劇場シーズンで上演、2005年the Masque pour la production “Québec”受賞）、デュ・ラ・ボルデ劇団の「Macbeth」「Ubu Roi」「Les feluettes」などがある。デュボワの作品は、遊び心と芸術に対する愛情に裏打ちされた、彼特有の芸術的な厳格さを特徴としている。

『ブックショップ』登場キャラクター

ジェーン

子どものときから本が大好きだった。想像するのは得意だが、人と話すのは大の苦手。夢がかなって、本屋さんのオーナーになったけれど…。

サミュエル

ジェーンの本屋のとなりのチョコレート屋さん。優しい心の持ち主。ファンタジーが好き。

登場人物たちが、相手にどんな気持ちを感じているか、考えてみましょう。

ヴィクター

ジェーンの本屋さんの前の前のオーナー。この世に思い残すことがあって、死んでからも幽霊となって、本屋さんにすんでいる。

ペトラ

ウクライナからこの国にやってきて、偶然ヴィクターと知り合う。しかし、家庭の事情ですぐに故郷に帰ってしまう。

ものがたり

舞台は、古い本屋の新装オープンの日から始まります。
子どもの頃から本が大好きだったジェーンは、夢がかなって、ついに古い本屋のオーナーになりました。
ジェーンは、ウキウキしながら開店（かいてん）の準備（じゅんび）をしますが、おとなりのチョコレート屋さん、サミュエルが気になってしかたがありません。初めて彼の姿を見たとたんに、恋をしてしまったのです。
でも、はずかしがりやのジェーンは、サミュエルに話かけることもできず、「好き」ということは心のなかにしまっておくことにしました。

その夜、ジェーンの前にヘンな中年の男性が現れます。70年前にこの本屋のオーナーだったヴィクター、そう幽霊（ゆうれい）だったのです。
事情を問い詰める彼女に彼は答えます。
「説明するには複雑すぎる･･･。一世一代のチャンスを逃してしまったんだ。とても貴重な本を無くしてしまって、 ３日間でそれを探し出さないと、天国に行けずに、永遠にこの本屋に出没する運命なんだ。」

そして翌日、二人が必死に本を探しているところへ、隣のチョコレート屋のサミュエルがやってきます。ところが、声をかけられても、ジェーンは緊張のあまり声を出すこともできません。見かねたヴィクターが助け舟を出しても、ギクシャクするばかりです。

ヴィクターがジェーンを応援するのには、悲しい理由がありました。
彼もまた、ウクライナから来た美しい女性ペトラを愛していたのに、気持ちを伝えられないまま別れてしまったことを、深く後悔していたのです。

「ちゃんと好きと言わなくちゃ！」、ヴィクターはジェーンを励ましますが、ジェーンはなかなかその勇気が持てません。
「幽霊にもできないことなのよ！好きだなんてとても言えない･･･。」

ジェーンはサミュエルに“好き”という気持ちを伝えられるのでしょうか？
そしてヴィクターは、無事に天国に旅立つことができるのでしょうか？

スタッフ＆キャスト

（この作品を創った人たち）

■クリエイティブ・チーム

脚本	マリー＝ジョセ・バスタン
翻訳	長谷川仰子
演出	フレデリック・デュボア
装置	エリーゼ・デュベ
衣裳	イザベル・セントルイス
音響	パスカル・ロビテイユ
照明	フェリックス＝ベルニエ・ギモン
アーティスティック・ディレクター	キャロル・カッシスタ
プロダクション・ディレクター	マーク・サンジャック
日本プロダクション･ディレクター	池亀誠一郎
舞台美術コーディネート	向井登子
帽子デザイン・製作・提供	㈱ヨシダ

■出演者

ジェーン	麻乃 佳世（あさの かよ）
ヴィクター	川井 康弘（かわい やすひろ）
サミュエル	藤井 宏之（ふじい ひろゆき）
ペトラ	大輝 ゆう（だいき ゆう）

■製作チーム

企画製作	劇団グロ・メカノ（カナダ・ケベック州） バスタInc.（日本）
後 援	ケベック州政府在日事務所
制 作	山下真智子（リトル・クリエイターズ） ヘレネ・バスク、フランシーヌ・シャボウ （劇団グロ・メカノ）
協 力	ジャンクション、町田英子事務所 劇団 俳優座、ギフト
宣伝写真	池上直哉
宣伝デザイン	本永恵子